

～ ひかり探Qプロジェクト～

「室 積 の 探 Q 」

光市立室積中学校 3年

江 崎 奏 弥

「ひかり探Qプロジェクト」経過発表（会場：室積中学校）より

1 はじめに

最初に私が参加している「ひかり探Qプロジェクト」について紹介します。この活動は、光市を舞台に自分の「気になる」を探し、それを考える場です。私がこの活動に参加した理由は、「室積」について調べてみたいけど、「どう調べたらいいのかわからない」という時に、校長先生から探Qをやってみたら？ というふうに声をかけられ参加しました。



2 室積の「良いところ」

それでは、「ひかり探Qプロジェクト」で学んだことを皆さんに伝えたいと思います。皆さんは室積の「良いところ」として何を思い浮かべますか？ おそらく皆さんは海、山、歴史、文化、このようなことを思い浮かべたのではないかと思います。



しかし、私はこれ以上に思う「良いところ」があります。それは「人の温かさ」です。私の自転車がパンクしていた時に、わざわざ車から降りて声をかけてくれた人や、素振りを

している時に赤玉ねぎをくれた人など、優しい方が室積にはたくさんいます。



こんなに良い人たちがいることを、「室積以外の人に知ってもらいたい」と考えました。そのためには、やはり室積以外の人が集まってくる必要があります。なので、室積にある自然や歴史をうまく活用すれば良いのではないかと考えました。そこで、僕は歴史に着目しました。



3 第二奇兵隊とは

調べていくうちに一つの存在について知ります。それは「第二奇兵隊」です。第二奇兵隊について知っている人はいますか？ ほとんど知らない人が多いのではないのでしょうか。



では「奇兵隊」はさすがに聞いたことあるでしょう。長州藩の高杉晋作が創設し、身分を問わず集めた江戸時代末期の混成部隊のことです。第二奇兵隊は奇兵隊との関わりが

あり、総督となった白井小助は奇兵隊で参謀として参加するほどの人でした。もっと説明したいのですが、時間がないので簡潔に説明します。

それは室積を中心にできた部隊ということです。さて、どうして第二奇兵隊を調べようと思ったのか。それは室積の歴史の中で欠かせないものだから、そして実際に室積にも幕末の志士がいたことに興味を持ったからです。

「やってみたい」と思ったことは、第二奇兵隊にゆかりがあるところを訪れてみたい、もっと第二奇兵隊のことを知りたいということです。そこで11月下旬、実際に第二奇兵隊とゆかりがあるところへ行ってきました。

4 第二奇兵隊の足取りをたどる

まずは結成の地、室積の専光寺です。専光寺には三百名が隊士として参加していましたが、狭くなったため普賢寺へと移動しました。当時の室積は港町で発展しており、商人等がいる中、訓練は難しいと判断し、石城山へと移動します。そうして石城山は第二



奇兵隊の本拠地となり、練兵の一環として射撃、騎兵の訓練を行っていました。



5 第二奇兵隊の活躍

それでは、第二奇兵隊の活躍についてお話します。江戸時代末期、幕府軍は長州へと攻め込めます。いわゆる第二次長州征伐です。開戦してすぐに周防大島は幕府軍に占領されてしまいました。その時に大砲で撃たれたり、略奪があったことで、毛利家は第二奇兵隊を大島へと向かわせました。



しかし、幕府軍二万に対して第二奇兵隊はわずか四百人、一度柳井まで下がりました。幕府軍は簡単に勝ったことで調子に乗り始めます。しかし、これこそが作戦で、周防大島の近くに来ていた高杉晋作らと共闘し、高杉晋作率いる船の部隊が夜襲を仕掛けます。混乱しているうちに第二奇兵隊も奮戦し、大島を奪還することに成功しました。



また、幕末と言えばで有名な新選組との対決は、鳥羽伏見の戦いで三度も勝利しています。さて、第二奇兵隊の活躍はどうだったでしょうか。僕は格好いいと思います。



6 活動の振り返り

僕はこの探Qを通して、地域を盛り上げられる要素は揃っていることと、室積には探究してもまだまだ知らないものがたくさんあるということを学びました。

この探Qをこれからの生活に生かしたいと思います。好奇心や調べる力、行動力は、「問題を解決する力」へとつながり、地域のイベントやボランティアへの参加は「地域愛」へとつながります。僕は室積のことが大好きで、「みたらいアートプロジェクト」や「早長秋祭り」、「七草がゆ」のボランティアなどに参加しています。



室積が好きな人は、ボランティアやイベントに参加してみようか。

また、今日の発表で「ひかり探Qプロジェクト」に興味を持った人はぜひ参加してみてください。中学1年生からでも中学3年生からでも大丈夫です。仲間と一緒に参加してみるのもいいかもしれません。

あと、僕のプロジェクトも引き継いでくれる人がいれば嬉しいです。最後になりますが、「ひかり探Qプロジェクト」への参加を後押ししてくださった校長先生、僕の探Qをサポートしてくださった永光先生、奥屋先生、磯部先生、本当にありがとうございました。以上で発表を終わります。

